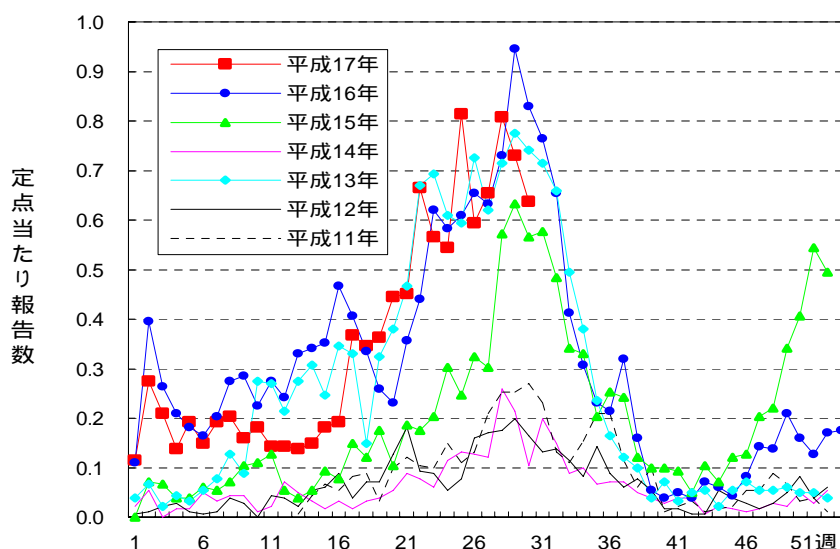


流行状況

咽頭結膜熱



その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

先週感染性胃腸炎の 13 歳女、10 歳男の兄弟は、カンピロバクターによるものであった。

マイコプラズマ気管支肺炎 2 例

【一宮市 後藤小児科医院】

病原性大腸菌 O1 1 歳男、5 歳男

病原性大腸菌 O86 a 3 歳女

マイコプラズマ肺炎は 12 人

【一宮市 城後小児科】

ヘルパンギーナ減少ぎみになりました。熱がつづくマイコプラズマ肺炎 2 例ありました。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】アデノウイルス感染症が多くみられています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】ヘルパンギーナが、やや減少して参りました。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

プール熱を含むアデノウイルス感染症、ヘルパンギーナが多くみられます。

カンピロバクター+病原大腸菌O18 2歳女

カンピロバクター腸炎 3歳女

サルモネラO7 1歳女

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

夏休みに入ってヘルパンギーナ、アデノウイルス感染共に減少してきました。

水痘が少し目立ちました。

その他、流行性耳下腺炎、溶連菌感染症散発

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
とくにかわりがない。

【春日井市 春日井市民病院】

胃腸かぜ、アデノ感染症つづいてます。

溶連菌感染症増加

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週はヘルパンギーナも少しおさまってきました。

【春日井市 かがわ北病院】

ヘルパンギーナ峠を越えたか。

【小牧市 小牧市民病院】

ヘルパンギーナも減少傾向です。

【小牧市 志水こどもクリニック】

病原大腸菌O18 VT(-)2か月男

【半田市 医療法人林医院】

8歳女 胸部帯状疱疹

【南知多町 医療法人大岩医院】

マイコプラズマ感染症と思われる症例いくつかあり。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

40~44歳 1名 モジラミ

【豊田市 トヨタ記念病院】

カンピロバクター(+)8歳男

【岡崎市 花田こどもクリニック】

8歳女 サルモネラO8

5歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

ヘルパンギーナいますが減りました。

【碧南市 永井小児クリニック】

ムンプス、ヘルパンギーナが流行中です。

【三好町 三好町民病院】

3歳女 サルモネラO8

1歳男 病原大腸菌O6+サルモネラO7

【西尾市 こどもクリニック宮地医院】

5歳男 アデノウイルス感染症

6歳男 カンピロバクター・病原性大腸菌O1 VT(-)

11歳女 カンピロバクター

2歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)

5歳男 アレルギー性紫斑病

【幸田町 とみた小児科】

病原性大腸菌O1 7歳男

カンピロバクター 5歳男

【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

3歳女 アデノ扁桃炎

【豊橋市 野村小児科】

病原性大腸菌O8 3歳女

カンピロバクター 4歳男

【豊川市 ささき小児科】

一 ~ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。)-

細菌性赤痢

<関連リンク> 二類感染症

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3>)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	師 勝	23	男		7 / 23	7 / 26	推定感染地域 タイ

腸管出血性大腸菌感染症

<関連リンク>

(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	豊田市	18	女	7 / 18	7 / 25	7 / 26	O157 VT1(+) VT2(+)
2	豊田市	68	男	7 / 18	7 / 26	7 / 28	O157 VT1(+) VT2(+)
3	豊田市	17	男	7 / 26	7 / 27	7 / 30	O157 VT1(+) VT2(+)
4	豊田市	18	女	7 / 18	7 / 20	7 / 28	O157 VT1(+) VT2(+)
5	一 宮	29	女		7 / 21	7 / 25	O157 VT1(-) VT2(+) 29週報の再掲
6	一 宮	74	女	7 / 20	7 / 21	7 / 26	O157 VT1(-) VT2(+) 29週報の再掲
7	津 島	36	男		7 / 25	7 / 25	O157 VT2(+)
*	知 多	72	男	7 / 9	7 / 10	7 / 12	O128 VT1(+) 28週報 No.3 の菌型 (O1)訂正あり
*	一 宮	78	男		7 / 28	8 / 1	O157 VT1(-) VT2(+) 31週報告分

アメーバ赤痢 1 例（推定感染地域：国内、推定感染経路：経口感染）
（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-1>）

愛知県感染症情報

平成 17 年 8 月 4 日

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

真夏の昼下がり、古いお寺やお屋敷の並ぶ町を歩いていますと、大きな百日紅が白や紅の花をたわわに咲かせていて耳を聳するばかりの蝉の音が響いてきます。いつも貴重な情報を有難うございます。7 月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギーナが依然として多く、サルモネラ腸炎が増加傾向、ムンプスは例年どおりでヘルパンギーナの重症例の入院が目立つが入院を要する感染症は少なく、マイコプラズマ肺炎の入院は一定数あり、千種区今枝先生からは感染症は少なく、伝染性膿痂疹 4 歳女、感染性胃腸炎 5 歳男あり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎 3 名（病原性大腸菌 O - 128 が 1 名、O - 25 が 2 名、1 名入院）、A 群溶連菌咽頭炎 3 名（2 名入院）、水痘 1 名、マイコを含む気管支炎・肺炎の入院 4 名、高熱の咽頭炎・扁桃炎で 10 名ほど入院（アデノウイルス陰性）、中京病院柴田先生からは手足口病・ヘルパンギーナはなく、夏カゼが出ており、無菌性髄膜炎が増えている、労災病院山田先生からはヘルパンギーナが目立ち、アデノウイルスのプール熱も多く、ムンプス少し多く、水痘ポツポツ、溶連菌たまにあり、マイコプラズマ感染目立ち、1 歳児のインフルエンザ菌髄膜炎 1 例、胃腸炎（ウイルス性、サルモネラ、カンピロバクター、病原性大腸菌）の入院が目立つとのことのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはヘルパンギーナと感染性胃腸炎がそれぞれ散発中、江南市昭和病院小児科からは溶連菌感染症が相変わらず多く水痘が目立ち、入院ではアデノウイルス感染症、川崎病、サルモネラ腸炎の集団食中毒が目立った、常滑市民病院上田先生からは水痘、ムンプス、感染性腸炎（要入院例あり）、咽頭結膜熱、突発疹（要入院例あり）などが目立つとのことのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはヘルパンギーナは少し減ってきたが夏風邪はまだ多い、加茂病院梶田先生からはヘルパンギーナがとても多く、手足口病はわずかだけでムンプスと水痘は引続き流行、トビヒから S S S S になり入院する例が目立ち（ほとんどが M R S A）、ムンプス髄膜炎少して入院が全体的に減少、刈谷市田和先生からは夏風邪はヘルパンギーナを主流とした高熱の子が夏休みに入って少し減少、他に目立つものはない、豊橋市からは水痘、手足口病、ヘルパンギーナいずれも少数で、目立つものはないとのことのお手紙でした（市内長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2005 年 7 月 15 日（80 巻 28 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8028/en/>

コレラ。セネガル。最新情報：保健省発表。05 年 6 月 27 日～7 月 3 日、469 例（死亡）前週に比しやや減少。発生の主体は首都ダカールとその周辺部。当局は住民教育と環境整備活動強化を継続中。

ポリオ。インドネシア。最新情報：7 月 8 日時点で新規確認例 22、累計 122 例。新規例は西ジャワ。スマトラと中央ジャワで 5 月 31 日と 6 月 29 日に同地区の 5 歳以下小児 7 万 8 千人に緊急接種、8 月にも再実施を予定。

http://www.polioeradication.org/content/pressreleases/20050707_pressIndonesia.asp

ワクチン安全性に関する勧告世界委員会（Global Advisory Committee on Vaccine Safety, GACVS）。05 年 6 月 9～10 日、WHO 本部で委員会開催。勧告の概略：日本脳炎（JE）マウス脳不活化ワクチン：5 月 30 日、日本厚労省は JE 不活化ワクチン定期接種を一時見合わせとした。同省疾病・障害認定審査会において JE ワクチン接種後の ADEM 発症例 1 例について因果関係が示唆されたため。当分の間一般定期接種は控えて流行地への旅行などハイリスク者だけ接種対象とするよう勧告。当 WHO 委員会はさらなる情報が得られ次第検討する予定。

JE 弱毒生ワクチン SA14-14-2 の安全性：最近の生産量は年間約 5 千万接種量で主として中国で使用されている。強毒 SA14-14-2 JE ウイルス株の 57 ヌクレオチド変異株で神経病原性復帰の可能性はなく、混在ウイルスの存在は WHO 指針に添って否定。いくつかの接種試験で有効性は 1 回接種で 80～99%、2 回法で 98% 以上。副作用は軽度の発熱、発疹、嘔吐であり接種後 30 日間の重症神経系合併症は認められていない。当委員会に提出された成績は 79～98 年の 20 年間でワクチン関連の JE 発症報告はなく、麻しんワクチンと混合接種も有望視されている。韓国の接種試験の結果も同様で、韓国では 01 年に認可されている。今後、1 歳以前の乳児、妊婦、免疫不全者の接種、接種者から周囲への伝播と病原性の復帰などが課題である。INH 耐性 BCG 菌：最近オランダで 5 例、BCG 接種後のリンパ節炎から INH 耐性菌報告。委員会としては BCG 接種後のリンパ節炎は放置または外科的治療、免疫不全者の重症 BCG 感染症に対しては多剤併用を勧告。薬剤モニター：現在のスエーデン・ウプサラの WHO 薬剤モニターセンター充実を勧告。チメロサル問題：エチル水銀含有の保存剤。最近乳幼アカゲザルの実験でチメロサルによる脳内水銀蓄積の報告があったが、委員会としてはチメロサル含有ワクチンと小児の神経発達障害とは無関係であるとの見解を確認。6 価ワクチン（DTP 三混、インフルエンザ桿菌、不活化ポリオ、B 型肝炎）接種と突然死症候群：04 年 12 月に同委員会では 6 価ワクチンと突然死症候群に因果関係はないが監視は必要との見解を発表した。その後のドイツやイタリアにおける調査報告も因果関係は認められていない。麻しんワクチンと SSPE：同委員会では無関係をとみている。理由は 1) 免疫不全者の SSPE ウイルス分離株は全て麻しん野生株である。2) ワクチンが普及して麻しんが消失した地区では SSPE も減少している。今後のワクチン普及の重要性について 05 年 12 月に委員会から勧告提出予定。

7 月 8～14 日届出。コレラ：マリ。

2005年7月22日(80巻29号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8029/en/>

コレラ。セネガル。最新情報：保健省発表。05年7月4～10日。532例(死亡6)。前週に比しやや増加。首都ダカールと周辺地区。WHOアフリカ事務所とセネガル政府は薬剤と器材購入のための資金を拠出。

マールブルグ出血熱。アンゴラ。最新情報：保健省発表。7月10日時点で351例(死亡312)。対策チームはウイジェ州で患者接触者64名の追跡調査中で、新しい患者の発見とウイルス検査材料の収集(検査はカナダの国立研究所が担当)、ウイジェ州立病院と保健センターに対する予防対策活動の支援を継続中。

黄熱。南米とアフリカ。2004年の状況：世界で13カ国、235例(死亡65)がWHOに届出。検査室診断確定例と臨床診断例があり。遠隔地における黄疸を伴う発熱例や原因不明死亡例が届出られていないので、この数字は過少と思われる。届出235例中南米が111例(47%)、アフリカが124例(53%)で、死亡65例中南米が52(80%)、アフリカが13(20%)となっている。国別の詳細な報告があるが省略して概略を紹介する。南米：アフリカより死亡率が高いのが目立つ。5カ国。多い順に、ペルー61例(死亡31)、コロンビア30(11)、ボリビア10(4)、ブラジル5(3)、ベネズエラ5(3)。南米全地区で黄熱ワクチンは定期接種されている。

アフリカ：8カ国から124例届出、カメルーンを除き全て西アフリカ。02年に検査ネットワーク発足、黄疸を伴う発熱例の血清サンプルはダカールのパスツール研でIgM-酵素抗体法で確定検査されている。04年には届出例124検体中24検体(19%)が他のウイルスとの交叉反応も検討して黄熱と確定された。04年にアフリカ全域で黄熱ワクチンがEPI(ワクチン拡大計画)に加えられ、推定接種率は50%以下となっている。黄熱届出数の多い順に象牙海岸92例(死亡4)、ブルキナファソ10(3)、ギニア6(0)、カメルーン6(0)、リベリア5(5)、セネガル2(0)、マリ2(1)、ガーナ1(0)である。最近の作戦としてEPIへの組み込みが進められている。

7月15～21日届出。コレラ：セネガル、インド。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第30週(平成17年1月3日～平成17年7月31日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎*	無菌性髄膜炎*	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県						118	80,234	1,955	6,112	27,127	9,549	1,908	699	3,381	34	28	11,277	16	6,346	14	834	6	4	156	0	1
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	118	80,234	1,955	6,112	27,127	9,549	1,908	699	3,381	34	28	11,277	16	6,346	14	834	6	4	156	0	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	100	63,769	1,459	4,249	19,426	7,647	1,580	556	2,585	27	15	8,900	10	4,958	9	666	6	4	156	0	1
名古屋	70	70	11	14	1	18	16,465	496	1,863	7,701	1,902	328	143	796	7	13	2,377	6	1,388	5	168					
尾張東部	9	9	2	3	1	14	4,170	406	506	996	372	39	32	144	1	2	618	2	207		29			48		
海部津島	7	7	2	2	1		3,211	22	120	1,446	302	61	56	94		1	509		478		29			8		
尾張中部	4	4	1	1			2,064	1	129	607	213	18	19	55		1	364		95		27					
尾張西部	16	12	3	4	1	1	4,491	118	296	1,556	405	236	25	228	2	1	582		408	1	58	1				
尾張北部	9	9	2	3	1	18	7,534	270	349	1,217	544	104	28	261	6	6	762	1	226		32					1
	6	6	1	2		3	2,731	133	481	1,477	576	101	37	269			704	1	445		32					
知多半島	6	6	1	2	1	5	2,950	79	163	839	352	160	28	114	1		98	1	223		15			1		
	7	7	2	2		7	3,766	114	411	1,013	372	46	27	191		1	425	1	327		19					
西三河南部	11	7	2	2	1	5	6,131	41	308	485	611	115	37	340	4		912		537	2	46					
	13	13	2	4	1	6	9,033	46	358	1,581	1,023	105	126	241	2	1	922	2	522		154			10		
	5	5	1	2	1	12	1,893	20	176	654	410	149	31	114			454		138		22					
西三河北部	9	9	2	4	1	8	4,651	36	393	4,403	712	71	45	221	9	1	1,096		433		90	4	2	64		
東三河南部	12	8	2	4	1	1	6,866	130	354	1,776	495	112	37	190			663		155	2	83	1	1	22		
	9	8	1	2	1	20	3,616	39	194	1,345	1,213	257	28	120	2	1	771	2	756	4	30		1	3		
東三河北部	2	2			1		662	4	11	31	47	6		3			20		8							

* 豊橋市29週 無菌性髄膜炎 細菌性髄膜炎の訂正報告あり

愛知県感染症情報

2005年第1週～第30週(平成17年1月3日～平成17年7月31日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザを 除く。(高病原性鳥 インフルエンザ)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎*	無菌性髄膜炎*	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	100	63,769	1,459	4,249	19,426	7,647	1,580	556	2,585	27	15	8,900	10	4,958	9	666	6	4	156	0	1
～6ヶ月	50	319	12	9	280	193	18	2	171	7	1	93		3		6					
～12ヶ月	22	959	63	26	1,231	458	104	28	1,445	3		630	1	23		5					
0歳																	3		4		
1歳	15	3,279	246	131	2,883	1,288	385	32	891	3	2	1,939	2	219		22		1	21		
2歳	10	3,675	196	228	2,010	1,247	277	26	69	2	3	1,550	1	437	1	23			25		
3歳		4,334	303	474	1,802	1,604	301	55	8	2	1	1,587	1	822	1	36	1		22		
4歳	1	5,537	254	786	1,612	1,326	208	81		1	1	1,201	1	1,041		21			14		
5歳	1	5,473	165	876	1,382	762	142	81				876	2	867		20					
6歳	1	5,343	88	586	1,008	336	53	72		2		460	1	610	1	12					
7歳		4,021	42	376	743	170	26	55				230		327		6					
8歳		3,659	22	224	616	84	20	46		1		130		203		11					
9歳		3,188	20	160	500	48	12	35				82	1	119		4					
5歳～9歳																			40		
10歳～14歳		5,826	26	204	1,200	86	10	34	1	1	1	87		181		17			11		
15歳～19歳		992	1	19	427	10		1				7		12	1	12			1		
20歳～			21	150	3,732	35	24	8		5	1	28		94			2				
20歳～29歳		4,271													2	98		1	2		
30歳～39歳		6,135													1	189			4		1
40歳～49歳		2,631														59		1	2		
50歳～59歳		1,857													2	48		1	2		
60歳～69歳		1,149														46			4		
70歳～																31					
70歳～79歳		684																	3		
80歳以上		437																	1		

* 豊橋市29週 無菌性髄膜炎 細菌性髄膜炎の訂正報告あり